



原因

中耳に化膿菌が入り込み炎症を起こします。ほとんどが耳管からの感染で、強く鼻をかんだり、かぜの時の上咽頭炎が原因となります。この他、鼓膜に穿孔がある場合は外耳道より感染します。まれにインフルエンザなどウイルス感染によって起こすこともあります。

症状

かぜの前駆症状があって起こる耳痛は中耳炎による場合が多く、乳幼児では、就寝中に泣き出し、しばらく泣き続けるとまた眠るというようなかたちで発症します。

耳症状は耳痛のほか、難聴・耳閉塞感・拍動感があります。発熱・倦怠感・頭痛などを伴います。鼓膜が穿孔すると分泌物が流出します。

耳漏があると普通他の症状は軽くなります。

検査所見

耳鏡検査では鼓膜の発赤、膨隆がみられます。

耳漏の細菌検査で原因菌や薬剤の感受性を調べます。

治療と看護

安静にして、解熱鎮痛剤・抗生物質・消炎剤などを投与します。鼓膜に発赤や膨隆があっても穿孔してないものや、穿孔があっても分泌液の排泄が不十分なものに対しては鼓膜切開をします。

鼻をかむと咽頭圧が上昇するため、中耳炎の時は鼻をかまないようにします。また反復して起こることもあるので、かぜをひいた時には耳症状に注意しましょう。中途半端な治療は病気を潜伏性に経過し合併症を引き起こしかえって悪い結果をまねくこともあります。医師の指示に従い、きちんと治療しましょう。